

# Ⅱ 岩手県 釜石市

概要：三陸海岸に位置する  
2011年3月11日東日本大震災で  
大きな被害を受けた自治体

着実に市が  
再生にむけて  
復興していま  
す★

## 地域の背景・拠点の紹介

盛岡市の東南約100km/三陸沿岸

人口：約4万人

高齢化率：約34%

東日本大震災の死者・行方不明者数

釜石市：1061名（2.5%）

拠点事業主体：釜石市/一般枠

名称：『チームかまいし』

拠点の特徴：行政と地元医師会との  
強力な連携/釜石医師会から在  
宅医療専門医がチームアドバイ  
ザーとして派遣。



## Ⅱ 岩手県 釜石市

地域包括ケアの担当部署：

釜石市役所

保健福祉部健康推進課 地域医療連携推進室

中心的人物：

連携コーディネーター

**\* 市役所職員(純粋な行政官)を**

**釜石市医師会が育成**

**= 医療と行政をつなぐ橋渡しがスムーズになる**

# Ⅱ 岩手県 釜石市

## 釜石市のここがすごい！！

いつ、どこの地域に  
発生するのか  
正確には分からない災害  
地域が崩壊寸前になった事  
から見えてきた  
**地域連携・多職種協働の  
重要性**  
釜石市では  
住民と行政・多職種  
地域全体が心をつなにして  
地域をつなぐ取り組みが  
続けられています

### 被災地の視点から 復興を内包した地域包括ケアのまちづくり

- キーワードは**コミュニティ**
- 震災を通して初めてわかったこと
  - ❖ コミュニティの意味
  - ❖ 社会的健康の喪失と回復
  - ❖ 健康の社会的決定要因の回復
- 古くて新しい問題  
『コミュニティの再生』
- チームかまいしの役割
  - ❖ 広がる連携の可能性
  - ❖ まちづくりにおける多職種連携



## Ⅱ 岩手県 釜石市

釜石市のここがすごい！！

○地域包括ケアシステムは

釜石市行政(拠点)が主導し進められる

○釜石市医師会等多職種職能団体は後方支援

人材育成・多職種研修開催等

必要な場面で行政のコーディネートで動く

**地域の多職種が、  
行政のコーディネートでまとまって動く**

# Ⅱ 岩手県 釜石市

## 釜石市のここがすごい！！

こんな感じで、アットホームに



限られた地域の  
医療資源・介護支援を  
必要な時にみんなが活用できる為  
に、専門職も住民も  
地域の実情を理解して  
負担も利益も分かち合って  
地域を守る事に心を一つにする

地域の危機は  
みんなで乗り越える！

# Ⅱ 岩手県 釜石市

- 東日本大震災以前より、  
地元医師会 と 行政、多職種間で顔の見える関係はあった  
しかし、各職能団体間での社会貢献拠出に関する調整が難しい時期もあった  
きっかけ : 地域の救急医療が負担増大により崩壊する危険性があった  
⇒ 大震災をきっかけに、 地域連携が地域を支える事を実感  
多職種の取り組みがまとまりをもって展開した
- 多職種連携により負担を生じる事から多職種の理解と協力が得にくい事もあった  
具体例：研修・資料作成・副主治医制による負担感、会議への出席 等)  
→ 地域を支えるためには負担が生じる、という事を受容することが必要  
→ このために、時間をかけ、できる事から多職種連携を促進する  
\* リーダーは行政  
多職種の1職種がリーダーだと利益誘導等疑念を生じやすい
- 行政と多職種間での相互理解が難しい事もあった  
→ 行政官が専門職を理解する担当者を育成する 連携コーディネーター  
行政に多職種連携のノウハウを蓄積できる  
多職種の責任で育成する

主体は行政、医師会等医療関係者と相互支援の関係を構築する  
医療介護福祉の連携できる機能を行政に構築する

# Ⅲ 東京都 板橋区医師会

特徴：23区で唯一医師会立病院を保有  
療養相談室を設置(地域の相談窓口)  
医師会員数 500名以上  
地域貢献を医師会の使命と掲げて活動

